

各関係機関長 殿

岡山県病虫害防除所長
(公印省略)

病虫害発生予察情報について

病虫害発生予報第5号を下記のとおり発表したの送付します。

平成24年度病虫害発生予報第5号

平成24年 8月 2日
岡 山 県

予 報 概 評

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
水稲	葉いもち(中生種、晩生種)	—	並
	穂いもち(極早生種、早生種)	—	やや少
	紋枯病	—	少
	白葉枯病	並	並
	穂枯れ(早生種、中生種)	—	並
	ニカメイガ	並	並
	セジロウンカ	—	やや多
	トビイロウンカ	並	並
	イチモンジセセリ	—	並
	コブノメイガ	—	やや少
カメムシ類	—	やや多	
ダイズ	べと病	—	並
	紫斑病	—	並
	ハスモンヨトウ	並	やや少
モモ	モモハモグリガ	—	やや多
	ナシヒメシンクイ	—	やや少
	ハダニ類	—	並
ブドウ	さび病	並	並
	褐斑病	並	並
	べと病	—	やや少
	ブドウトラカミキリ	—	並
	フタテンヒメヨコバイ	—	やや少

作物名	病虫害名	発生時期	発生量
キュウリ	べと病 うどんこ病 褐斑病	— — —	やや少 並 やや少
トマト	疫病 葉かび病	— —	やや少 やや少
ダイコン	軟腐病	—	並
アブラナ科野菜	キスジノミハムシ	—	やや多
野菜共通	アブラムシ類 ミナミキイロアザミウマ ハスモンヨトウ	— — 並	やや多 やや多 並
キク	ハダニ類	—	並

1 普通作物

(水 稲)

(1) 葉いもち (中生種、晩生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月26～27日の巡回調査によると、県南部地帯の発生圃場率は52.8%で
 平年(62.5%)並であった。

イ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は
 平年より少ないとされており、発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 葉いもちは穂いもちの伝染源となるので、発生圃場では速やかに薬剤
 防除を実施する。未発生圃場でも耐病性が弱い品種では病勢の進展が速
 いので、早期発見に努める。

(2) 穂いもち (極早生種、早生種)

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月25～27日の巡回調査によると、県北部地帯の葉いもちの発生圃場
 率は20.0%で平年(29.6%)よりやや低く、中部地帯は29.2%で平年(
 52.8%)より低かった。

イ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は
 平年より少ないとされており、発生を助長する条件ではない。

防除上の参考事項

ア. 葉いもちが多発するなどして穂いもちの多発が予想される場合は、液

剤または粉剤による出穂直前及び穂首出揃期の2回防除に加えて、傾穂期の散布を行う。

(3) 紋枯病

予報内容

発生量 少

予報の根拠

ア. イネの茎数は全般的に平年並である。

イ. 7月25～27日の巡回調査によると、発生圃場率は8.9%で平年(34.3%)より低かった。

ウ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件ではない。

(4) 白葉枯病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月25～27日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

イ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件ではない。

(5) 穂枯れ(ごま葉枯病菌による穂枯れ:早生種、中生種)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月25～27日の巡回調査によると、県内全域での葉におけるごま葉枯病の発生圃場率は14.4%で平年(17.9%)並であった。

イ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、発病をやや助長する条件である。

(6) ニカメイガ(第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおいて、7月5半旬までに誘殺は認められず、平年(0頭)並であった。

イ. 7月25～27日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

(7) セジロウンカ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における7月1～5半旬の飛来数は、28頭で平年(206.7頭)より少なかった。

イ. 7月25～27日の巡回調査によると、発生圃場率は77.8%で平年(56.1%)よりやや高く、すくい取り(20回振り)調査による成幼虫の発生量は179.5頭で平年(26.9頭)より多かった。

ウ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は少ないと

されており本虫の増殖を助長する条件である。

(8) トビイロウンカ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯において、7月5半旬までに飛来は認められず、平年(0頭)並であった。

イ. 7月25~27日の巡回調査において発生を認めなかった。

ウ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は少ないとされており本虫の増殖を助長する条件である。

(9) イチモンジセセリ(第2世代幼虫)

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月25~27日の巡回調査によると、発生圃場率は2.2%で平年(9.8%)より低く、発生程度は平年並であった。

イ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は少ないとされており本虫の増殖を助長する条件である。

(10) コブノメイガ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月25~27日の巡回調査によると、発生圃場率は2.2%で平年(54.6%)より低かった。

イ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は少ないとされており本虫の増殖を助長する条件である。

(11) カメムシ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市の予察灯における6月6半旬から7月4半旬までのアカスジカスミカメの誘殺数は421頭で平年(360.0頭)並であった。

イ. 7月25~26日の県北部イネ科牧草地のすくい取り調査(20回振り)によると、アカスジカスミカメの成虫数は189.2頭で平年(144.2頭)よりやや多かった。

(防除上の参考事項)

ア. 発生源であるイネ科植物からの飛来を防ぐため、水稻の出穂2週間前から出穂3週間後の間は、水田周辺の除草を行わない。

(ダ イ ズ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は

平年より少ないとされており、発生を助長する条件ではない。

(2) 紫斑病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件ではない。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生時期 並

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は106頭で、平年（283.5頭）より少なかった。

イ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は高く、降水量は少ないとされており本虫の増殖を助長する条件である。

2 果 樹

(モ モ)

(1) モモハモグリガ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は27頭で、平年（114.0頭）より少なかった。

イ. 7月17日の巡回調査によると発生圃場率は35.1%で平年（2.0%）より高かった。

ウ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

防除上の参考事項

ア. 平成24年度植物防疫情報第3号参照

(2) ナシヒメシンクイ

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 赤磐市のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は41頭で、平年（88.9頭）より少なかった。

イ. 7月17日の巡回調査によると、発生圃場率は40.5%で平年（48.6%）並であった。

ウ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(3) ハダニ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月17日の巡回調査によると、発生圃場率は27.0%で平年(31.4%)並であった。

イ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、本虫の増殖を助長する条件である。

(ブドウ)

(1) さび病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月17日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

イ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件ではない。

(2) 褐斑病

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月23日の県予察圃場での発病葉率は56.3%で平年(41.1%)よりやや高かった。

イ. 7月17日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年(2.3%)並であった。

ウ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件ではない。

(3) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月23日の県予察圃場での発病葉率は5.0%で平年(42.1%)より低かった。

イ. 7月17日の巡回調査によると、発生圃場率は35.7%で平年(51.8%)よりやや低かった。

ウ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件ではない。

(4) ブドウトラカミキリ

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月17日の巡回調査において、平年同様発生を認めなかった。

(5) フタテンヒメヨコバイ(第2世代幼虫)

予報内容

発生時期 やや遅

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月17日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(5.7%)より

低かった。

3 野菜

(キュウリ)

(1) ベと病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月24日の県予察圃場での発病葉率は51.5%で、平年(46.0%)並であった。

イ. 7月23～24日の巡回調査によると、発生圃場率は33.3%で平年(68.9%)より低かった。

ウ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を抑制する条件である。

(2) うどんこ病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月24日の県予察圃場での発病葉率は1.0%で、平年(9.6%)より低かった。

イ. 7月23～24日の巡回調査によると、発生圃場率は55.6%で平年(27.2%)より高かった。

ウ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生をやや抑制する条件である。

(3) 褐斑病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月24日の県予察圃場での発病葉率は0%で平年(9.5%)より低かった。

イ. 7月23～24日の巡回調査によると、発生圃場率は33.3%で平年(56.9%)よりやや低かった。

ウ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、特に発生を助長する条件ではない。高温は本病の発生を助長する条件となるが、降水量が少ない場合には抑制条件となる。

(トマト)

(1) 疫病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月24日の県予察圃場では、平年同様発生を認めなかった。

イ. 7月23～24日の巡回調査によると、発生圃場率は0%で平年(3.4%)並であった。

ウ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は

平年より少ないとされており、発生を抑制する条件である。

(2) 葉かび病

予報内容

発生量 やや少

予報の根拠

ア. 7月24日の県予察圃場での発病葉率は3.4%で、平年（過去7年間の平均値2.9%）並であった。

イ. 7月23～24日の巡回調査によると、発生圃場率は12.5%で平年（15.8%）並であった。

ウ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生をやや抑制する条件である。

(ダイコン)

(1) 軟腐病

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月23～24日の巡回調査によると、発生圃場率は25.0%で平年（36.5%）並であった。

イ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、特に発生を助長する条件ではない。高温は本病の発生を助長する条件となるが、降水量が少ない場合には抑制条件となる。

(アブラナ科野菜)

(1) キスジノミハムシ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月23～24日の巡回調査によると、ダイコンでは発生圃場率が33.3%で平年（52.9%）並であった。

イ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件である。

(野菜共通)

(1) アブラムシ類

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）の黄色水盤への7月1～5半旬の飛来数は67頭で平年（60.1頭）並であった。

イ. 7月23～24日の巡回調査によると、トマトでは発生圃場率が37.5%で平年（14.3%）よりやや高く、キュウリでは発生を認めず平年（29.7%）より低かった。

ウ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件である。

(2) ミナミキイロアザミウマ

予報内容

発生量 やや多

予報の根拠

ア. 7月23～24日の巡回調査によると、露地野菜（ナス、キュウリ）での発生量は平年並であった。

イ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件である。

(3) ハスモンヨトウ

予報内容

発生時期 並

発生量 並

予報の根拠

ア. 県予察圃場（赤磐市）のフェロモントラップにおける7月1～5半旬の誘殺数は106頭で、平年（283.5頭）より少なかった。

イ. 7月23～24日の巡回調査によると、ナス、キュウリでは平年同様発生を認めなかった。

ウ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件である。

4 花き類

(キク)

(1) ハダニ類

予報内容

発生量 並

予報の根拠

ア. 7月23～24日の巡回調査では発生を認めず、発生圃場率は平年（16.8%）より低かった。

イ. 7月27日の季節予報によると、8月の気温は平年より高く、降水量は平年より少ないとされており、発生を助長する条件である。

この情報は、岡山県病虫害防除所ホームページでも公開しています。アドレスは、http://www.pref.okayama.jp/soshiki/kakuka.html?sec_sec1=239 です。